

2017 CSR報告書

Corporate Social Responsibility Report

CONTENTS

トップメッセージ	02
会社概要	03 ~ 06
社会を支える信頼と技術	07 ~ 08
 CSR 憲章	09
 CSR 推進体制	10
 コーポレート・ガバナンス	11
2016 年度 活動テーマと取り組み状況	12
トピックス	13 ~ 14
 社会とともに	-環境保全- 15 ~ 19
 お客様とともに	-品質・安全性- 20
	-顧客ニーズ収集活動- 21 ~ 22
 株主様とともに	23
 お取引先様とともに	-公正な取引- 24
 社員とともに	-人権・労働- 25 ~ 26
	-安全衛生- 27 ~ 28
 情報セキュリティ	29
 社会貢献	30

報告対象範囲

日本シイエムケイ(株)およびその関係会社

国内CMKグループ

日本シイエムケイ(株)

- 本社
- SEセンター
- Gステーション工場
- 新潟工場
- 蒲原工場
- 秩父工場
- 営業所 (8拠点)

関係会社

- シイエムケイ・プロダクツ(株)

海外CMKグループ

事業所

- 旗利得電子(東莞)有限公司
- 希門凱電子(無錫)有限公司
- CMK CORPORATION (THAILAND) CO.,LTD.

営業拠点

- CMK ASIA (PTE.) LTD.
- 新昇電子(香港)有限公司
- 新昇電子貿易(深圳)有限公司
- CMK EUROPE N.V.
- CMK AMERICA CORPORATION

編集方針

当社のCSRに関する基本的な方針や考え方、また当該年度における主な取り組み活動内容について、ステークホルダー毎に分類し掲載しています。

なお、本内容については当社WEBサイト上にも公開するなど、みなさまとのコミュニケーションツールとして活用しています。

WEBサイトのご案内

WEBサイトにて本レポートと環境情報に特化した環境データ集をご覧いただけます。

<http://www.cmk-corp.com/csr/>

報告対象期間

データ : 2016年4月1日~2017年3月31日

記事・内容 : 2017年6月までを含む

参考ガイドライン

ISO26000 「社会的責任に関する手引き」

環境省 「環境報告ガイドライン (2012年版)」

トップメッセージ

持続可能な社会への貢献と価値創出

わたしたちを取り巻く環境はさまざまに変化しており、政治情勢をとっても世界的に内向き思考のトップや政党が台頭するなど世論自体の潮流が大きく変化しており、経済への影響を含め国際社会全体に不透明感が漂う状況となっています。

国境を越え人やモノが自由に動くグローバル化に邁進してきた国際社会が今、大きな転換点を迎えているなか、地球環境問題はもとより人口増加による食糧危機や資源の枯渇問題、人権問題、貧困問題、教育・経済の格差問題など地球規模での社会課題は山積しています。

当社はプリント配線板の専門メーカーとして社是である「発展と永続」を旨とし、その存在意義からも企業存続と持続可能な社会への貢献を一体として捉え、事業を通じ如何に価値を創出し続けることができるかを追求しつつ、日々取り組んでいます。

プリント配線板は、あらゆる電子機器のベースとなる存在であり、身近なものから宇宙空間まで私たちの周りの暮らしを支え広く社会に浸透し活用されています。また、この先超高齢化社会を迎えるなか、安心・安全性能の向上、スマートコミュニティ、さらにIoTやAIの進化など、急速な技術革新により大量データの取得・分析・実行の循環から自律制御に至るまで関連分野の一層の進展が期待されています。

特に当社が主力市場としている車載市場においても、環境対応や安全装置の搭載など電装システムの採用が進み、低炭素社会の実現や安全への取り組みが加速しています。とりわけ自動ブレーキなどの先進運転支援システム(ADAS)では、超高齢化社会を背景に期待されるクルマの役割そのものが大きく変化しています。わたしたちは、自動運転を含め誰もが安心・安全に扱えるクルマ社会の実現に向け、その使命を担うべく、事業を通じ社会課題の解決に真摯に取り組む貢献していきたいと考えています。



代表取締役社長 高井建郎

企業存続の礎として

企業の持続的成長の礎として企業価値があり、その向上のためにはステークホルダーの皆様にご支援いただける企業づくりが必要となります。持続的収益体質強化など財務面の取り組みはもとより、非財務面での活動についても重要となる点からCSR活動を経営優先課題として積極的に推進していく所存です。

また、社会要請にお応えしていくベースは役職員であり、その一人ひとりに対して上位概念の社是や経営理念などのミッション類をはじめ「CMKグループ行動宣言」等規範類による価値意識やあるべき姿勢などバリューについて、丁寧且つ地道に共有・浸透させていくことが何より重要であると考えています。当社においては、これらミッションやバリューを含めコンプライアンスを推進するための仕組みを整備し、毎期PDCAサイクルにより計画的に推進しています。

これをベースに製造業として肝となるコア技術や品質マネジメントのノウハウ等の伝承に力点を置くなど、新たな価値を創出していくための育成環境とその強化に努めています。

グローバルでの標準化を目指して(「One CMK」の実現)

当社は、主力である車載市場のほか、通信デバイス市場を重点市場としており今後も市場の拡大が見込まれています。

特に車載市場においては、これまで蓄積してきた品質保証体制がさらに重要となり、現行のカーナビ機器一つをとっても通信機能が格段に強化され、ネットワークを活用したコミュニケーション機能部分など従前のニーズとは確実に変化しています。

今後、自動運転車が現実的に街を走行するとすると、人の命に関することだけに部品一つの不具合が大きな事故につながる可能性もあり、それだけにトレーサビリティの重要性がクローズアップされるなど、現時点においても容易に想像できる所です。

このことから生産工程と一体となった品質管理および保証体制が求められることとなり、IoTの活用が欠かせない時代となっています。

こうした流れを踏まえ、当社においてはグローバルレベルでの標準化「One CMK」を進め、「製造」、「品質」、「技術」、「営業」、「管理」とも、それぞれ世界同一レベル実現に向け、取り組みを加速しています。

当社の社是である「発展と永続」は、創業以来社会、とりわけステークホルダーのみなさまの声に耳を傾け、真摯に対応していくことが大前提にあり、社会に信頼されてこそ発展・継続し続けられるものとして、当社の存在意義の原点を示しています。

今後とも、社会の要請にお応えし持続可能な成長を実現していくためにも、果たすべき役割を十分認識し、企業づくりに向け邁進していく所存です。これからも、皆様方より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要

概要

商号	日本シイエムケイ株式会社
設立	1961年2月
代表者	代表取締役社長 高井 建郎
資本金	223億620万円
上場	東京証券取引所市場第一部
本社所在地	東京都新宿区西新宿六丁目5番1号
事業内容	民生用、産業用各種プリント配線板 及び電子デバイスの開発・製造・販売

経営理念

発展と永続のために

- 一. 良き企業市民として、その社会的責任を果たす。
- 一. 絶えざる自己革新により、業界のトップランナーとしての役割を果たし続ける。
- 一. ユーザーに信頼され、製品を通じてお客様に満足、喜びそして感動を提供する。
- 一. 社員も会社も輝き、躍動している企業を目指す。
- 一. 社員を信頼し、活躍の場を提供する。

CMKグループの主な事業拠点

従業員数	1,178名
グループ従業員数	4,512名
主な関係会社	10社

海外生産拠点



CMK CORPORATION
(THAILAND) CO., LTD.
タイ プラチンブリ

海外営業拠点

新昇電子貿易(深圳)有限公司
中国 ・深圳
・無錫
・東莞

新昇電子(香港)有限公司

CMK EUROPE N.V.
ベルギー ヘル

海外生産拠点

中国

旗利得電子(東莞)有限公司



希門凱電子(無錫)有限公司



海外営業拠点

CMK CORPORATION
(THAILAND) CO., LTD.
タイ バンコク

CMK ASIA (PTE.) LTD.
シンガポール
(駐在員事務所)

マレーシア ・ベナン
・クアラルンプール

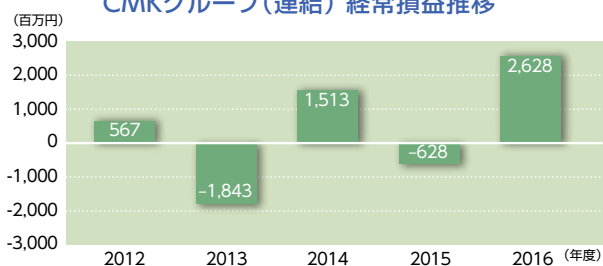
インドネシア ・ジャカルタ
ベトナム ・ハノイ

2016年度 経営数値

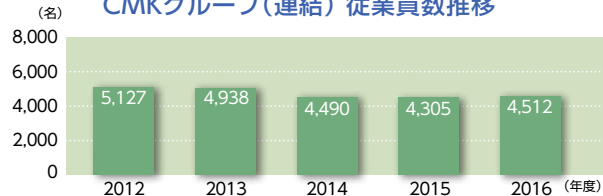
CMKグループ(連結) 売上高推移



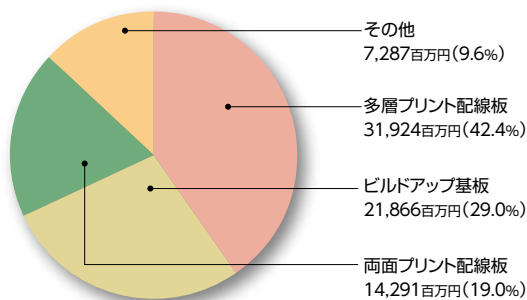
CMKグループ(連結) 経常損益推移



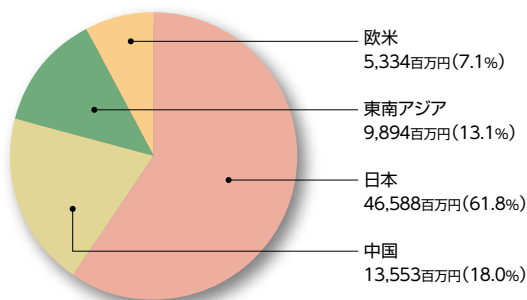
CMKグループ(連結) 従業員数推移



品目別売上構成比



所在地別売上構成比



国内営業拠点 (営業所等)

- 新潟工場 新潟県聖籠町
- 蒲原工場 新潟県五泉市
- 秩父工場 埼玉県秩父市
- Gステーション工場 群馬県伊勢崎市
- SEセンター 埼玉県三芳町
- 本社 東京都新宿区
- シエムケイ・プロダクツ(株) 神奈川県相模原市

海外営業拠点

- CMK AMERICA CORPORATION アメリカ アトランタ

プリント配線板は、私たち

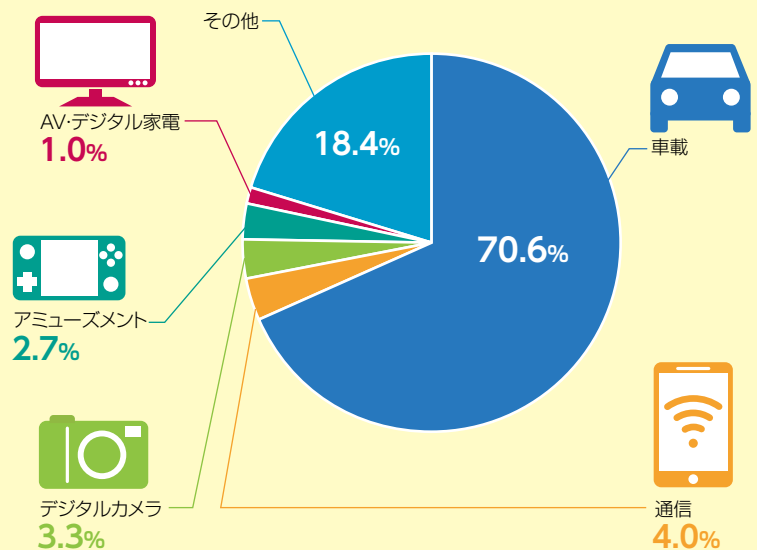
プリント配線板とは

当社が製造するプリント配線板（電子回路基板）は、私たちの生活を支えるあらゆる電化製品に搭載されています。プリント配線板の役割は、部品を載せる基礎であり、さらに部品と部品をつないで電気信号を伝えることです。これは人間の体に例えると骨格や神経の役割を担うものであり、電気を使う製品の中核をなすキーデバイスです。

日系企業全体の生産規模*は1兆4千億円が見込まれる重要な産業と言えます。

*生産規模は、一般社団法人日本電子回路工業会の実態調査より

2016年度 用途別売上構成

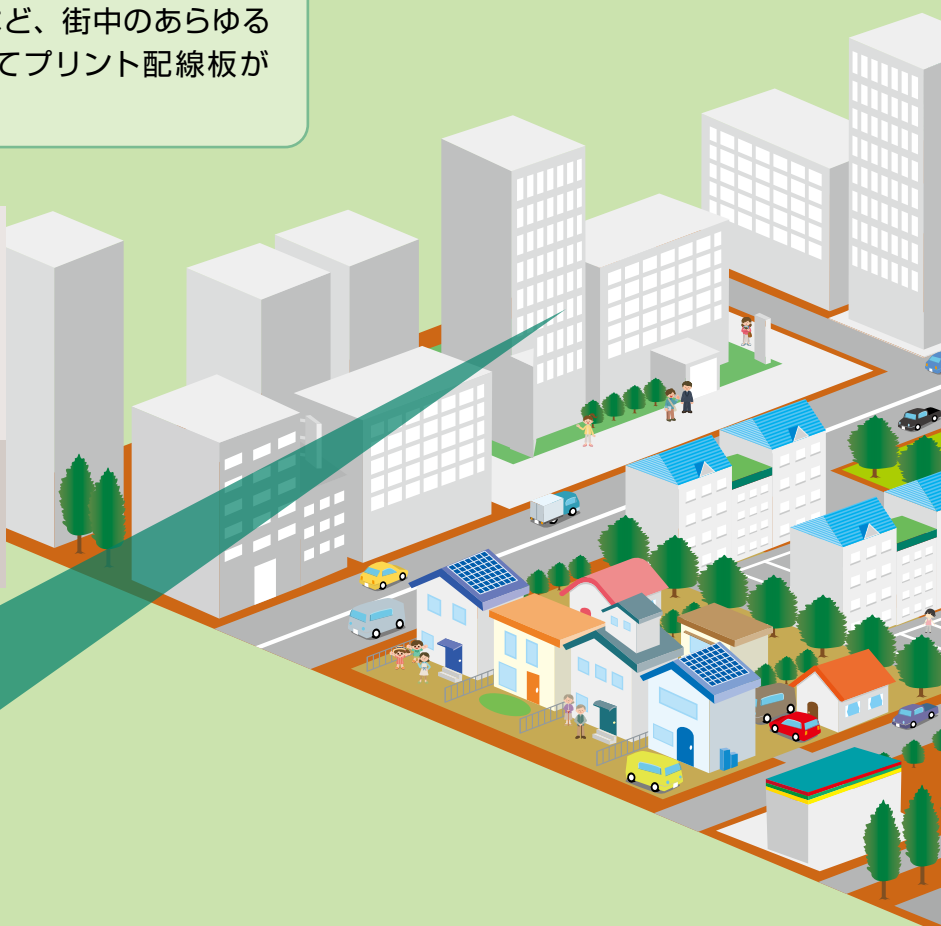


駅や商店、家庭、オフィスなど、街中のあらゆる電子機器製品のベースとしてプリント配線板が使用されています。



オフィスでは

パソコン、プリンター複合機、電話機やスマートフォンなどに使用されています。



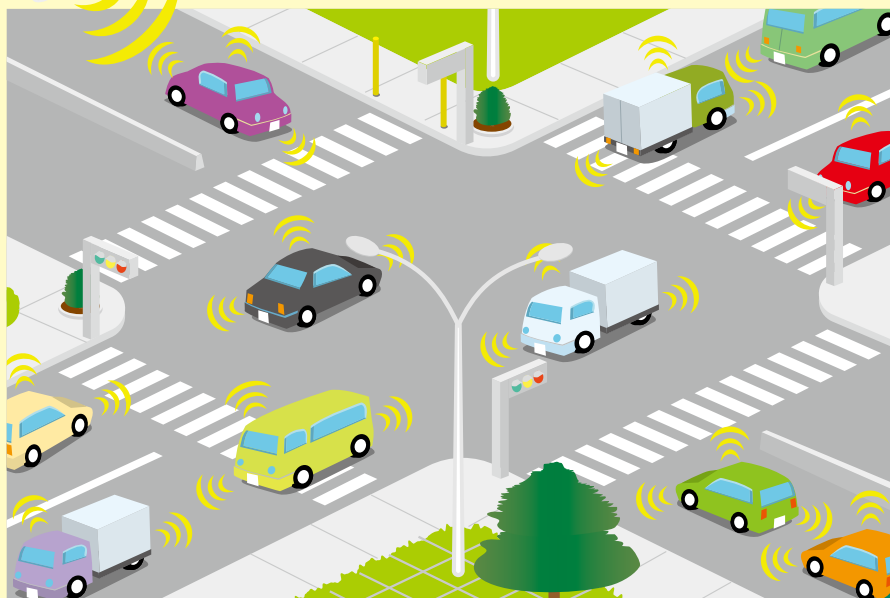
の暮らしと未来をつなぎます

自動車では

バックビューモニターやアラウンドビューモニターなどドライバーの死角を補う認知支援や前方映像を記録するドライブレコーダーの他、ドライバーがミスをした時のバックアップとしての自動ブレーキや道路でのレーン保持機能等々、ミリ波レーダー、センシングカメラ、赤外線、ソナーなど先進運転支援システム(ADAS)に使用され、安全性・利便性向上の役割を担っています。

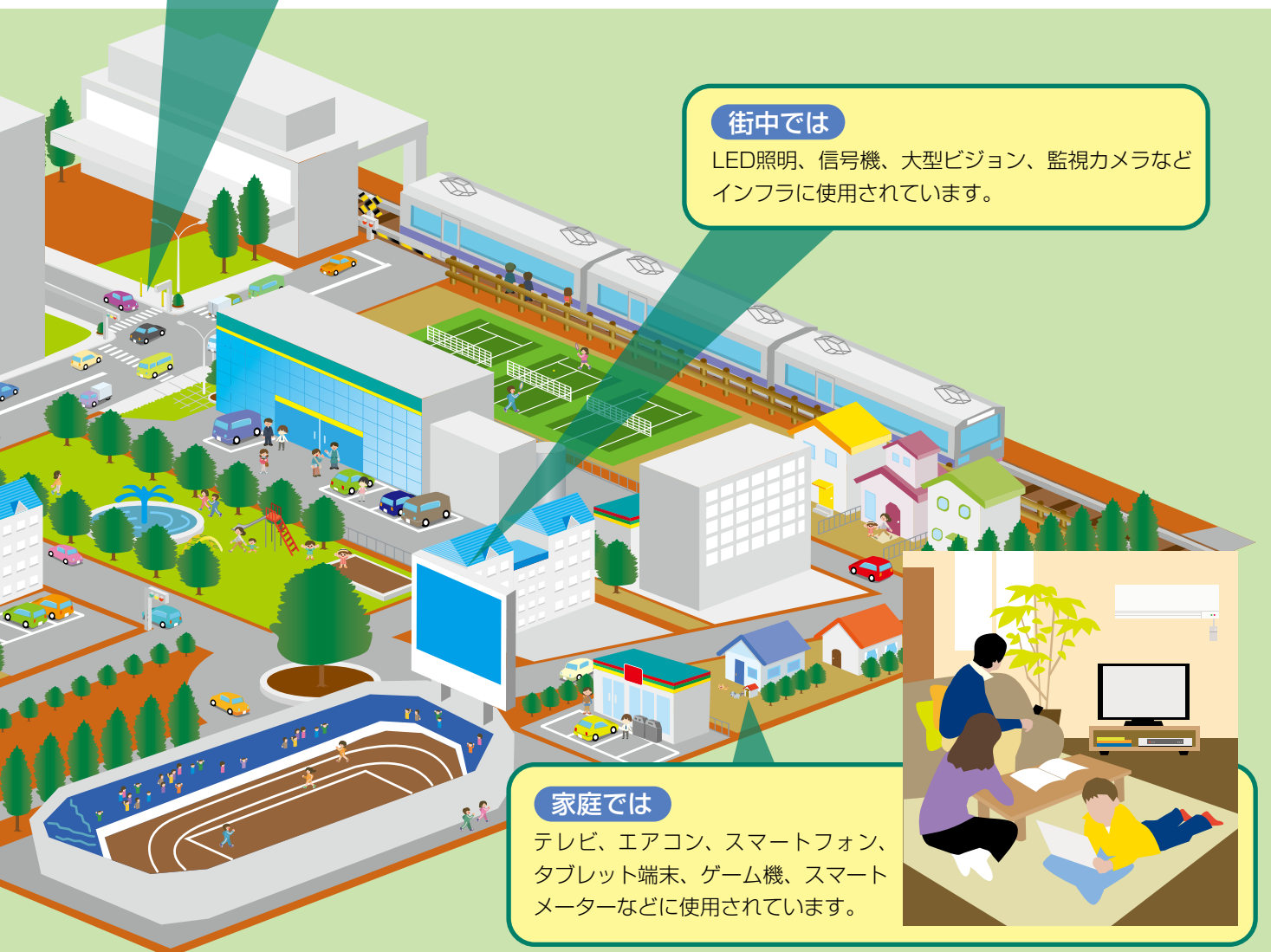
また、将来に向けてその技術が自動運転化のためのコア技術として、さらに広がることが期待されています。

(ADAS : Advanced Driver Assistance System)



街中では

LED照明、信号機、大型ビジョン、監視カメラなどインフラに使用されています。



家庭では

テレビ、エアコン、スマートフォン、タブレット端末、ゲーム機、スマートメーターなどに使用されています。



社会を支える信頼と技術

ADAS 技術の進歩で加速する自動運転の未来

信頼と実績に裏付けられた総合技術力により社会要請に対応してまいります

製品開発にあたり私たちが常に意識していることとして、市場ニーズにあった「プリント配線板」の開発があります。それはお客様に安全・安心をベースに、信頼され満足いただける製品の提供、さらには地球環境に配慮した開発・ものづくりの提供であり、その使命を果たすべく、日々、研究を積み重ねています。

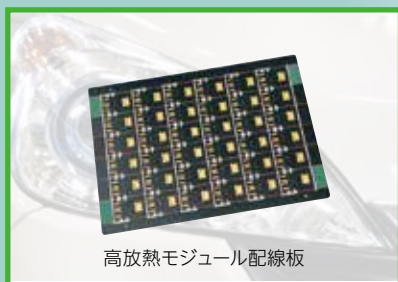
当社の主力である車載製品市場においても、環境対応や安全装置の搭載など電装システムの採用が進み、低炭素社会の実現や安全への取り組みが急加速しています。特に、自動ブレーキなどの先進運転支援システム（ADAS*）の急速な伸展により、超高齢化社会を背景に期待されるクルマの役割も大きく変化しています。

これらのシステムにはハードウェアとソフトウェアならびに通信機能が重要な役割を果たします。ハードウェアはセンサーとアクチュエータ、制御ECUで構成されていますが、特に重要となる外界センサーとしては、ミリ波レーダーやセンシングカメラ、レーザーレーダー、赤外線、ソナーなどが採用されています。

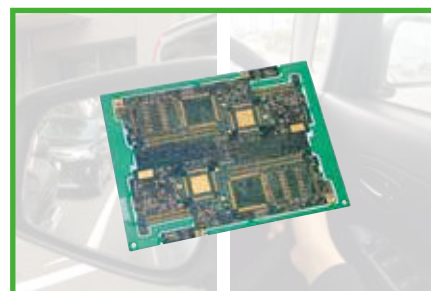
※ADAS : Advanced Driver Assistance System

ボディ・快適系

メーターパネル、ヘッドライト、エアコン、ミラー制御、パワーシート、サンルーフ等



高放熱モジュール配線板



パワートレイン系

エンジン制御装置、電圧変換装置等



セラミックス配線板代替の有機配線板

情報系

ナビゲーション、バックモニター、高度道路交通システム、車載用TVモニターなど



近年の開発取り組み

- ADAS技術のキーとなる高精度センサー基板の開発完了・量産開始
 （ミリ波レーダー配線板を広く普及させるための性能向上策として、アンテナ回路には優れた高周波特性の材料を用い、低コスト化のため一般材料との複合した構成で高信頼性を確認）
- 車載用途向けにセラミックス配線板（無機材料）の代替提案として、低コストな有機材料を使用した高信頼性配線板の開発完了・量産開始
- 車載用途での熱対策として、熱伝導性の高い銅ピンを配線板内に埋め込んだ構造の高放熱配線板の開発完了・試作品出荷開始

車載技術の動向

パワートレイン系 走行・安全系 ボディ・快適系	構造	HDI	スタガード	→	スタック、フルスタック
	仕様	L/S	100/150μm	→	100/100μm
	環境	温度	~125℃	→	~150℃
	製品	ADAS対応	ミリ波モジュール用配線板、カメラモジュール用配線板		
	製品	高耐熱対応	はんだクラック抑制 SEPT シリーズ		
	製品	小型化対応	リジッド・フレックス CARFT シリーズ		
情報系	構造	HDI	フルスタック2-4-2、3-4-3	→	フルスタック4-2-4
	仕様	L/S	100/100μm	→	75/75μm
	製品	高放熱対応	CMK-COMP シリーズ（銅ベース、銅インレイ、厚銅配線板）		
	製品	高電圧対応	EV/EHV用 配線板		
		2015年		2020年	2025年

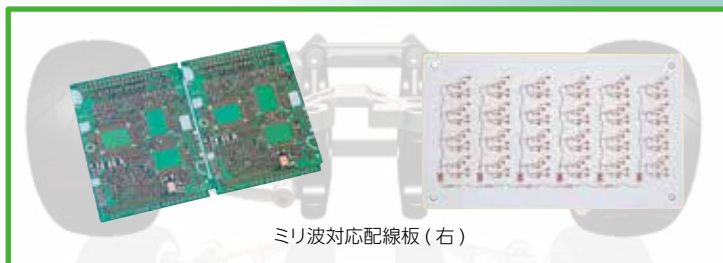
ADAS・自動運転系

ステレオカメラ、カラービューカメラ、レーザーレーダー、ミリ波レーダーなど



走行・安全系

ブレーキ制御、横滑り防止装置、エアバッグシステム、衝突防止レーダー、車載カメラ、空気圧センサー等



ミリ波対応配線板（右）



高信頼性リジッド・フレックスプリント配線板（左）



CSR 憲章

当社は、企業価値の向上を持続可能なものにするために、「CSR 理念」に「CMKグループ行動宣言」を合わせて、「CSR 憲章」として制定しています。これに基づき、従業員一同 CSR 活動を推進し、社是である「発展と持続」をステークホルダーのみなさまと共有できるよう取り組んでいきます。

CSR 理念

当社は「良き企業市民として、その社会的責任を果たす」という経営理念の一つにも謳われている、企業が持つ社会性を常に意識し行動します。

CMKグループ行動宣言 (原文より要旨抜粋)



社会とともに

当社は、社会との調和共存をはかるために、社会との相互理解を深め、信頼関係を築く活動を積極的に行います。



お客様とともに

良き企業活動の根本はお客様の支持を得ることにあります。確固たる支持を受け続ける企業となるべく、行動します。



株主様とともに

当社の真の姿が理解され、多くの方に株主様となっていただくことが、さらなる発展の礎となります。当社は公正に情報を開示し、株主様の共感を得る活動に努めます。



お取引先様とともに

当社は、支援していただけるお取引先との良きパートナーシップがあってこそ、繁栄が訪れると考え、行動します。



社員とともに

発展の原動力は社員の活躍です。活躍した社員を正當に遇することが、さらなる発展を生みます。当社内外で活躍しうる人材作りと社員の成長を推し進めます。

(CMKグループ行動宣言は2002年10月に制定、2008年4月、2013年1月に改正しています)

CMKのCSR 経営概念図

当社のCSR経営は社是・経営理念・CSR憲章・経営ビジョンを根幹とし、内部統制やコンプライアンス、リスクマネジメント活動といった基本システムをベースに中期経営計画をはじめ、さらなる企業価値向上を目指し各種活動に取り組んでいます。

この根・幹をベースに枝や葉、葉先に至る葉脈まで、システムを浸透させ育てていくことが持続的発展につながるものと考えます。

1年に春夏秋冬があるように、PDCAサイクルを自ら考え行動し継続的に循環させることにより成長を促し、収穫可能な果実をステークホルダーのみなさまと共有できるようさらに取り組んでいきます。





CSR推進体制

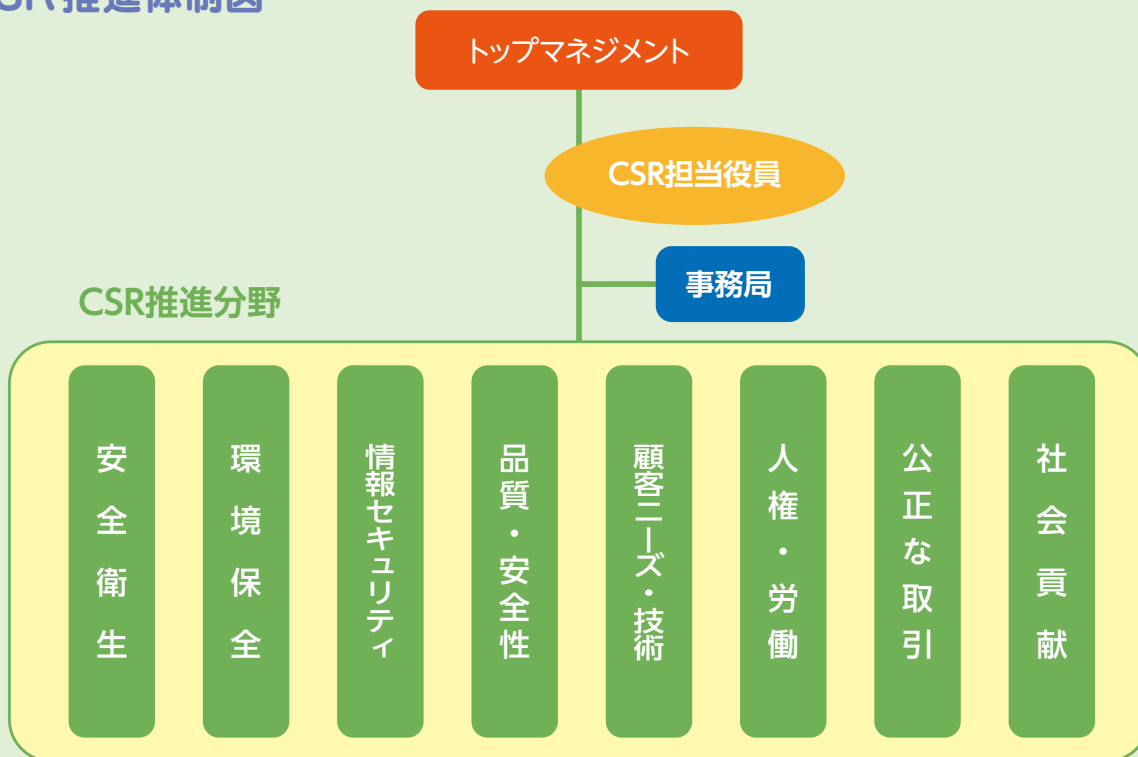
当社は、事業活動を通じ社会・ステークホルダーのみなさまの課題や期待に応え、信頼関係を構築していくことが使命であり、それが企業価値向上につながるものと確信しています。そのためには、掲げる「CSR憲章」に基づき、これを具現化し推進していくことが重要であると考えます。

推進体制と主な推進分野

CSR担当役員を議長とし、CSR関係部門長を構成メンバーとした「CSR推進会議」を定期的で開催し、同会議によりCSR活動の方向付け、進捗状況評価、経営層への報告など、必要な展開を行っています。

なお、各推進分野の検討項目はISO26000などCSRに関する国際的な指標類（ガイドライン）を用いたうえ、ステークホルダーのみなさまのご意見を参考として分類しています。

CSR推進体制図



会議構成部門…経営管理部、人事総務部、事務管理部、営業企画部、
購買部、情報システム部、品質保証統括部、技術開発本部

(2017年4月 環境推進室は環境推進部として品質保証統括部に統合となりました)

取り組み課題とCSR報告書

優先課題として抽出された各関連テーマやその取り組み内容については、継続的に「CSR報告書」を通じ開示しています。

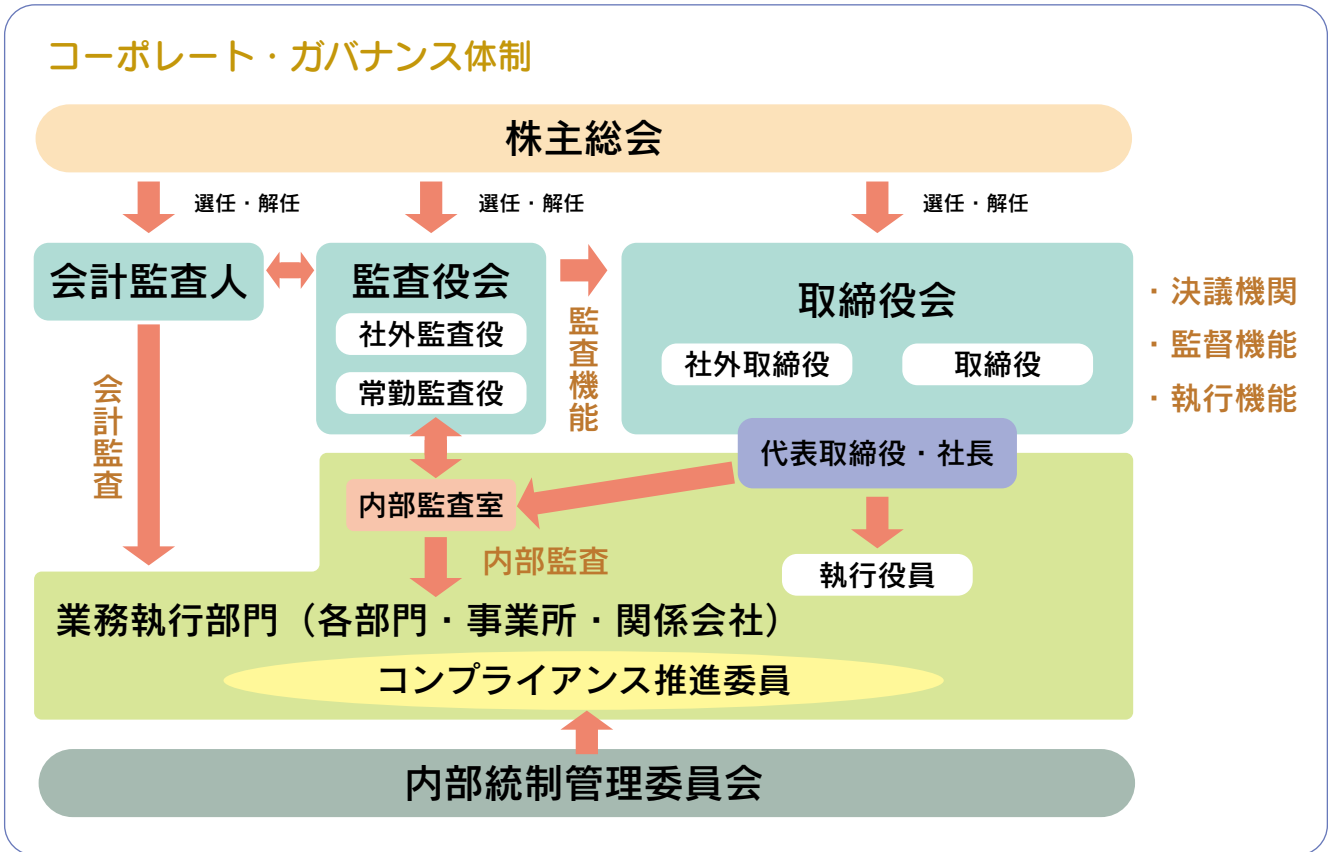




コーポレート・ガバナンス

当社にとってのコーポレート・ガバナンスとは、社是である「発展と永続」のとおり、企業が持続的に成長し長期的な企業価値を最大化させるための基盤として必要不可欠な仕組みであると認識しています。

コーポレート・ガバナンス体制



当社は社外取締役2名と社外監査役2名を選任しています。社外取締役は客観的・中立的視点から取締役会における意思決定を監視、業務執行を監督、社外監査役は取締役会への出席はもとより取締役から経営上の重要事項に関する説明を聴取、意見を述べるとともに取締役の職務の遂行について監査を行っています。この社外取締役の監督機能および社外監査役の監査機能により、経営監視機能の客観性・中立性が確保されているものと考えます。さらに監査役、会計監査人、内部監査部門および内部統制部門との相互連携がはかられており、執行・監督体制が構築されています。

内部統制システム

取締役会のもと「内部統制に関する基本方針」に則し、体制を整備し継続的な取り組みを行っています。内部統制担当役員を設置、「内部統制管理委員会」を常設、コンプライアンス遵守体制の整備・運用、リスクの洗い出し・評価・統制状況等のモニタリングなど、内部監査部門による監査機能含め未然防止のための仕組みを整備し継続的に運用しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制活動についても有効である旨を確認した「内部統制報告書」を開示しています。

コンプライアンス

「コンプライアンス推進規程」に従い、当社グループ地区単位にエリア責任者・コンプライアンス推進委員を配置、コンプライアンスプログラム(推進計画)に則し、CMKグループ行動宣言などの規範類や内部通報制度の周知活動を通じ、役職員のコンプライアンス意識向上に取り組んでいます。本年度は内部通報制度関連規程を見直し、計画に基づく規範類の周知活動と併せヘルプラインの認識と重要性について啓発活動を推進しました。

2016年度 活動テーマと取り組み状況

ステークホルダー別に活動テーマを掲げ、以下のとおり取り組みを進めています。
2016年度の活動内容の一部を各ページに掲載しています。

CSR活動領域における状況

項目	2016年度の活動テーマ	2016年度評価	主な活動内容
CSR マネジメント P9～P11	コーポレートガバナンス・コードへの対応		公表対応、課題別継続検討
	規程・体制の整備		コンプライアンス推進規程の制定、コンプライアンス推進活動の仕組み化
	BCPの推進		国内外 BCP 体制強化
社会とともに P15～P19	環境リスクの未然防止		環境リスクマネジメントプログラムの推進
	環境負荷物質の管理		法規制に準じた化学物質管理
	CO ₂ 削減活動の実施		省エネ推進計画に則った活動
	フロン法の遵守		フロン漏洩量の把握・管理
	廃棄物の削減		ゼロエミッション活動の推進
	生物多様性保全		地域に密着した生物多様性保全活動の推進
お客様とともに P20～P22	顧客ニーズに則した製品開発		新製品開発の推進
	顧客ニーズ対応		CS調査の実施
			お客様からの評価・満足度向上
			製品安全性確保に向けた信頼性の評価
展示会への継続出展			
株主様とともに P23	株主様・投資家とのコミュニケーション		IR活動・適時開示対応
お取引先様とともに P24	公正な取引		独占禁止法及び下請法についての教育実施
			CSR調査の実施
社員とともに P25～P28	人権啓発活動の推進		人権異文化教育の実施
	ダイバーシティの推進		外国人採用の推進
			女性従業員のキャリア形成の推進
	ワークライフ・バランス		各種休暇制度
			労働時間短縮への取り組み
			育児、介護休業の利用促進
	グローバル人材育成		海外留学制度
	キャリアパス制度		人材育成のジョブローテーションの実施
	公平公正な評価		適切な評価教育の実施
	職場環境の改善		内部通報制度の周知
社員の安全と健康		メンタルヘルス課題への取り組み	
		ゼロ災職場の実現	
情報セキュリティ P29	情報セキュリティレベルの維持・向上		自己評価による改善活動
			マイナンバー制度に対する取り組み
社会貢献 P30	地域社会への貢献		地域社会主催の環境美化活動の参画
			地域社会主催のイベントへの参画
			インターンシップ制度の推進

トピックス

CMK CORPORATION (THAILAND) CO.,LTD. (CMKタイ) 特集

Topics 1

社会貢献活動

私たちが働くCMKタイは、タイ王国のプラチンブリ県304工業団地にあります。

タイ王国は長い王朝の歴史を持ち、国民の9割以上が敬虔な仏教徒であり、上座部仏教と呼ばれているもので、男子は一生に一度は出家して修行を積み、出家が許されない女性などの在家者は僧侶が必要とする食べ物などを納めたり、寺院修復のための寄進をします。これらは「タムブン」すなわち「徳を積む」行為と考えられ、根本的な行いであると説かれています。

こうした背景もあり、毎年CMKタイでもさまざまな社会貢献活動を行っています。

2016年度の活動としては、工場内照明のLED化を進めるなか、余剰となる比較的新しい蛍光灯を地域の防犯用などとして、また購入材料の梱包材(クッション材)であるプラスチック製段ボール板が小学校や地域で教材用としてそれぞれ活用可能であることがわかり寄贈しました。

その他、A4用紙、バレーボール・フットボール用ネットなどを地域の小学校、寺院、病院、市町村に寄贈し、有効活用していただきました。

2016年度主な寄贈内容		寄贈先
蛍光灯	1100本	小学校
	1100本	寺
	100本	病院
	300本	市町村
A4用紙	165箱	小学校
	20箱	寺
	50箱	病院
	10箱	市町村
クッション材	1250枚	小学校
	200枚	寺
	50枚	病院
	350枚	市町村
バレーボール・フットボール用ネット	3セット	小学校

CMKタイの概要

名称：CMK CORPORATION (THAILAND) CO.,LTD.
所在地：PRACHINBURI THAILAND
設立：2006年4月
従業員数：1,487名 (2017/3/31現在)



寺院への寄贈



市町村への寄贈



小学校への寄贈

Topics 2 水資源の再利用活動

グローバルな社会課題となっている「水リスク対策」についての取り組みとして、今回はタイ工場の水資源再利用活動についてご紹介いたします。

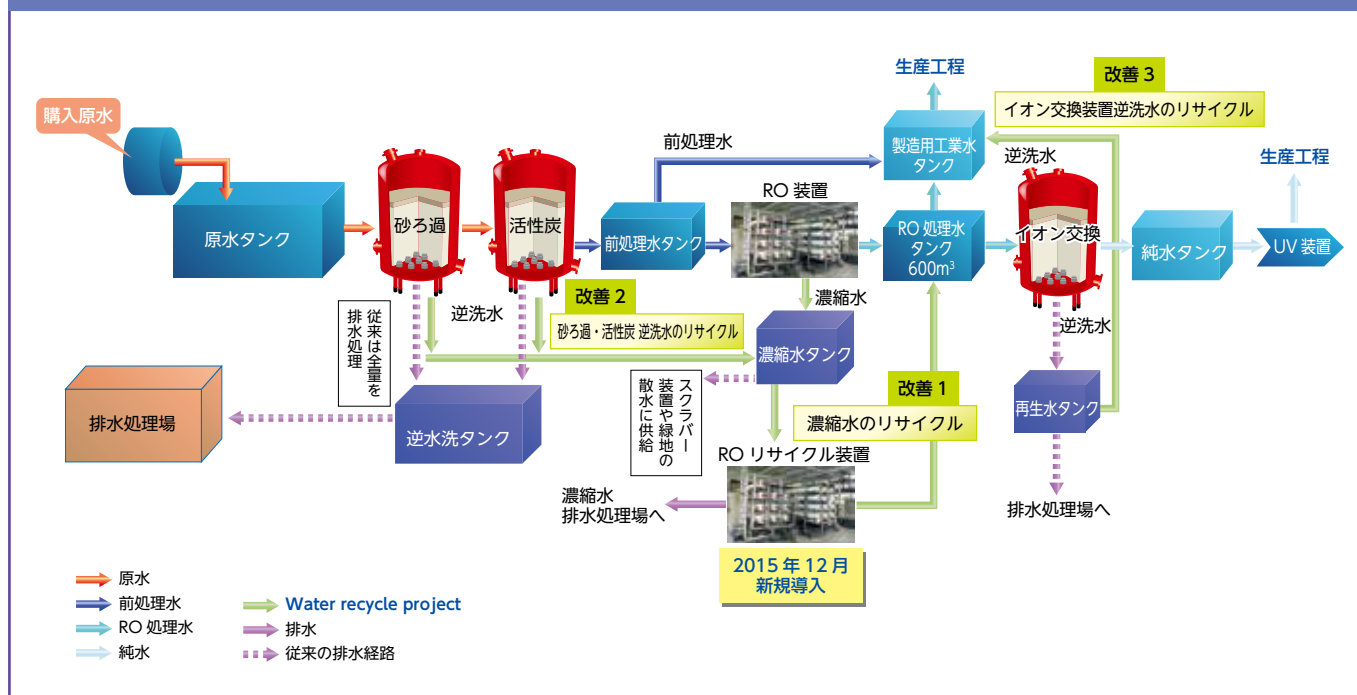
日本には四季があり、冬には山に雪が降り積もり、春にはきれいな雪解け水が川を流れていますが、タイ王国では主に乾季と雨季に分かれるうえ地形的にも平野部が多く、日本のように水資源を貯蓄できる自然環境はありません。降雨によりもたらされた水も川から海へと流れてしまうことから、水は極めて貴重な資源となっています。こうした環境のなか、プリント配線板の生産には大量の水とその水質の確保が必要となるためCMKタイでは水資源の有効利用が最大の課題となっています。

工場で使用する水は、工業団地内浄化施設で処理した原水を調達していますが、そのままでは生産工程で使用する水質としては不適切なため、砂ろ過・活性炭処理、RO膜（逆浸透膜）処理、イオン交換樹脂による浄化処理などを行ったうえで工場内に供給しています。今回、そのプロセスのなか、従来排水として処理していた水に着目し、貴重な水資源として再利用するため以下の3つの改善を行いました。

改善 1	RO濃縮水のリサイクル 【2015年12月導入】	RO装置から排出される濃縮水は従来、不用な水として工場外へ排出されるが、今回の改善では、濃縮水を更にRO処理し、生産用として再利用するROリサイクル装置を導入しました。
改善 2	砂ろ過・活性炭装置逆洗水のリサイクル 【2016年開始】	砂ろ過・活性炭装置から排出される逆洗水は従来、排水処理場で処理されるが、改善1で導入したROリサイクル装置へ送り、再利用できるようにしました。
改善 3	イオン交換装置逆洗水のリサイクル 【2016年開始】	イオン交換装置から排出される逆洗水は従来、排水処理場で処理されるが、設備改善により工業用水として再利用できるようにしました。

改善効果 → 現在 約2～4万トン／月のリサイクル化を達成

PLANT WATER TREATMENT





社会とともに — 環境保全 —

当社は、環境保全活動を経営の重要課題の一つと認識し、その基本姿勢を明確にするために、環境憲章として制定した「環境理念」および「環境基本方針」をもとに、「環境行動計画」を策定し、環境保全活動を推進しています。地球との共生を果たしながら持続可能な社会の実現に向けて社員一丸となり取り組んでいます。

環境経営の基盤

環境理念

日本CMKは、「良き企業市民として、その社会的責任を果たす」という経営理念の一つに基づき地球環境にやさしい企業活動をあらゆる面で推進し、環境との調和を図るよう行動します。

環境基本方針

日本CMKは、地球環境との調和を図り、かけがえない自然の恵みを護ること、それは今を生きる私たちの責任だと考え、全員参加で環境保全活動の質的向上と継続的改善を推進します。

- ① CMKグループの環境推進体制を整備し、環境への取り組みを明らかにして推進する。
- ② 環境に関する法令・規制、顧客要求事項の遵守と企業活動における源流管理を徹底する。
- ③ 限りある資源を大切に、省エネルギー、リサイクルの推進及び廃棄物の削減を図る。
- ④ 企業活動において環境アセスメントを実施し、環境負荷の低減と有害物質の代替を推進する。
- ⑤ 環境監査を実施し、環境管理活動の確認と維持向上に努める。
- ⑥ 環境リスクアセスメントを実施し、リスクの未然防止に努める。
- ⑦ 緑豊かな自然と恵みを大切にすると共に地域環境への共生に努める。
- ⑧ 環境教育による意識の高揚と広報活動を積極的に推進する。

CMKの環境への取り組み

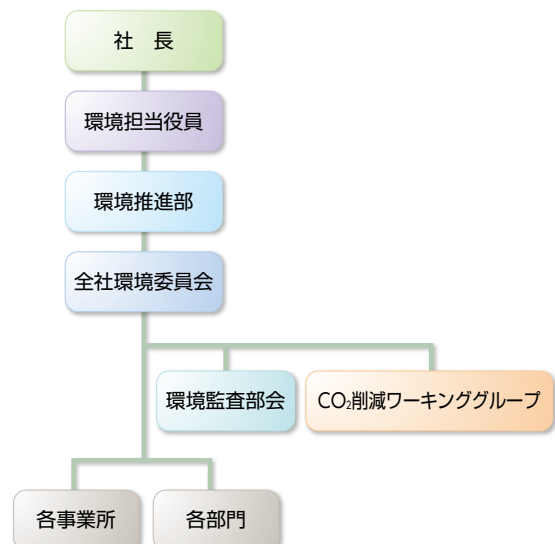


環境保全推進体制

国内外のすべての生産事業所においてISO14001の認証を取得すると共に、全社的な環境保全体制を構築し活動を推進しています。

CMKグループの横断的環境管理組織として、全社環境委員会を設置しています。

また、全社環境委員会の諮問機関の位置付けとして化学物質の管理状況について確認を担う環境監査部とCO₂削減を推進するワーキンググループを設け、より一層の活動強化をはかっています。



環境教育の実施

教育プログラムに環境教育を組み込み、毎年計画的に実施しています。eラーニングによる教育をはじめ、従業員や新入社員、海外赴任者に至るまでさまざまな環境教育を実施しています。

環境スローガン

社員の環境活動への意識向上を目的に、2001年度より毎年度「環境スローガン」の募集を行っており、2017年度は834件の応募がありました。

環境スローガンは、全社環境委員会で決定し、環境活動を推進するため日本語を英語、中国語に翻訳し、CMKグループで共有しています。

2017年度 環境スローガン (834件の応募から選出)



2017年度 環境スローガンに選ばれた方からの声

私たちが使用する機械は休むことなく稼働しているため、徐々に老朽化が進むと不具合による停止頻度も高まり、生産工程でのロスタイム(無駄な時間)につながってしまいます。

また、それにともない消費されるエネルギーや副資材の使用量が増えることにより環境への負荷も多くなっています。

このロスタイムを減らすためには、私たち作業者が日頃からわずかな異常でも発見できるよう五感を研ぎ澄まし、機械に違和感がないか常に意識することが何より重要であり、機械の異常を察知した場合には、早期に対応がとれるよう徹底することも欠かせません。

これらを励行することで、「機械が止まらない」＝「ロスタイムが出ない」＝「無駄なエネルギーや副資材を使わない」＝「環境にやさしいものづくり」の徹底を目指していきたいという思いをスローガンに込めました。

環境リスクマネジメント活動

環境リスクマネジメントプログラムの実施

事業活動により環境へ影響を及ぼす、もしくは影響を与える可能性のある潜在的なリスクの早期発見に努めています。

毎年度、国内外の事業所において環境リスクマネジメントプログラムが運用されており、計画的に環境リスクを抽出し、対策を実施する仕組みとなっています。

2016年度は、国内外合わせて50件のリスクが発見され、重要度が高いリスクに対して22件の施策を講じました。

環境法令の遵守

環境リスクの観点から事業活動に関係する環境法令の制定および改定情報について、官報をはじめとする各種関連情報ソースを用いて情報収集を行っています。

これらの情報は、環境法令の遵守状況の確認を目的に作成している「環境関連法令等遵法チェックリスト」に落とし込み、各事業所で年1回チェックを実施し、遵守状況を確認しています。

生物多様性保全活動

当社は、環境基本方針に則し、各事業所周辺地域の行政・ボランティア団体などと連携して、森林整備やサケの生態保護活動など、さまざまな活動を積極的に行っています。

また、グリーン調達を通じてお取引先様への啓発活動を推進するなど社会全体で「自然共生社会」を目指しています。



蒲原工場の活動

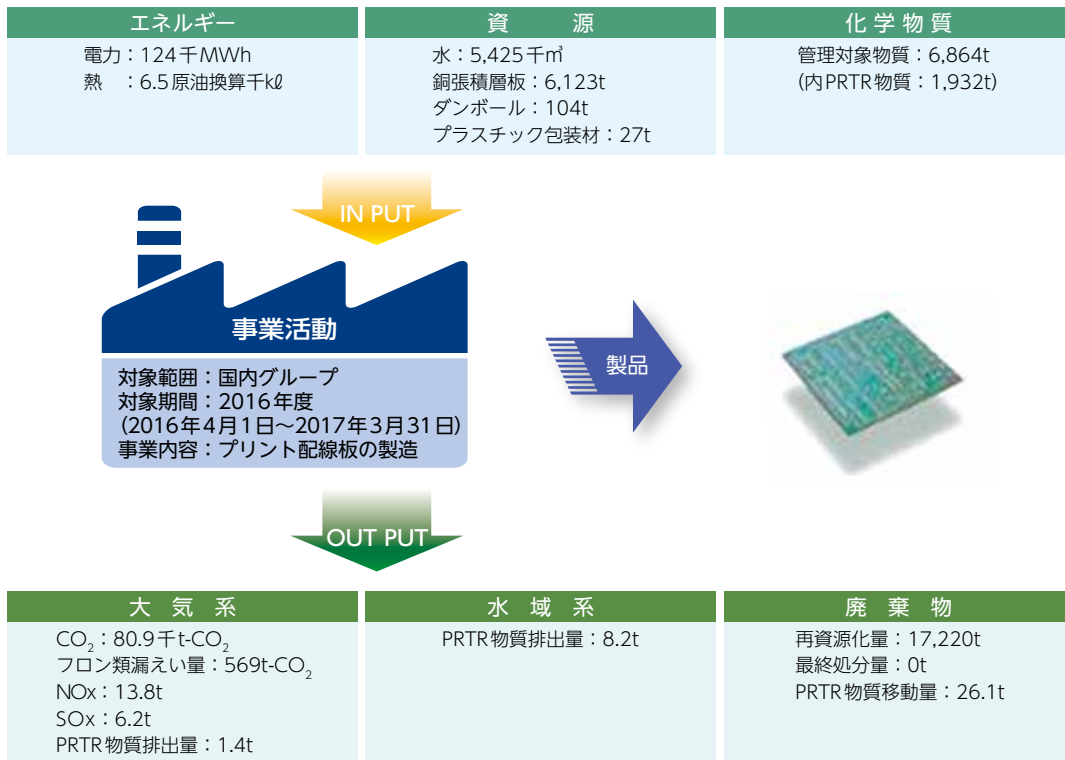
地球環境保全活動

事業活動と環境との関わりあい

事業活動に必要な資源およびエネルギーの使用量とそれによって排出される温室効果ガスや廃棄物の排出量を適切に把握する事で、より効果的な環境活動につなげています。

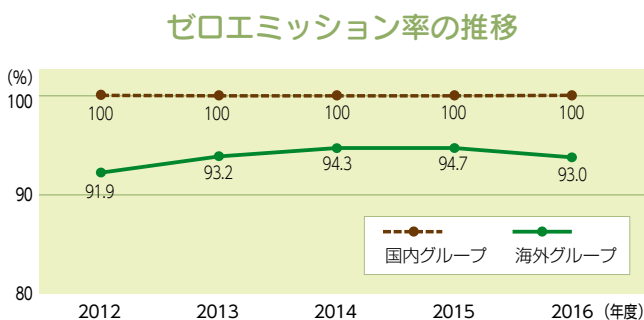
また、事業活動で使用する化学物質については、ISO14001の管理活動を主体として、法規制や業界団体の削減目標を考慮したうえで、自主管理区分*とこれに対応した対象物質を定め、取扱量の把握など自主的な管理を実施しています。

※無条件禁止物質、条件付き禁止物質、管理物質の3つに区分。



ゼロエミッションへの取り組み

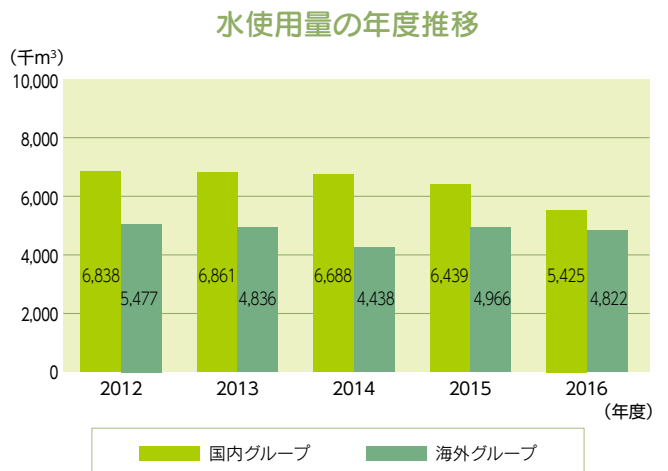
当社では、ゼロエミッションを「直接埋め立て処分する廃棄物の量をゼロにすること（業者委託による中間処理の残渣の埋め立て処分量は含まない）」と定義し、その達成を目指して取り組んでいます。2016年度のゼロエミッション率は国内グループでは、100%を維持、海外グループでは93.0%（前年度比1.7ポイント悪化）となりました。



水資源の有効利用

当社では、水資源の有効利用、使用量削減への取り組みとして生産設備へ節水機能を搭載するなど積極的に推進しています。

海外のタイ工場では、2016年1月より新しい水リサイクル装置が本格稼働しています。

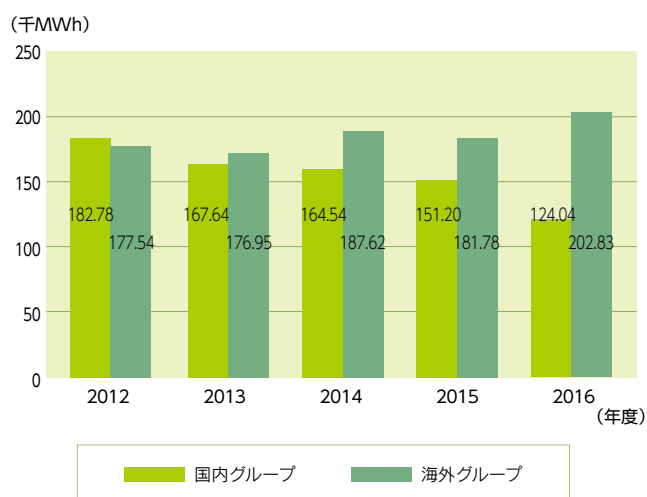


地球温暖化の防止

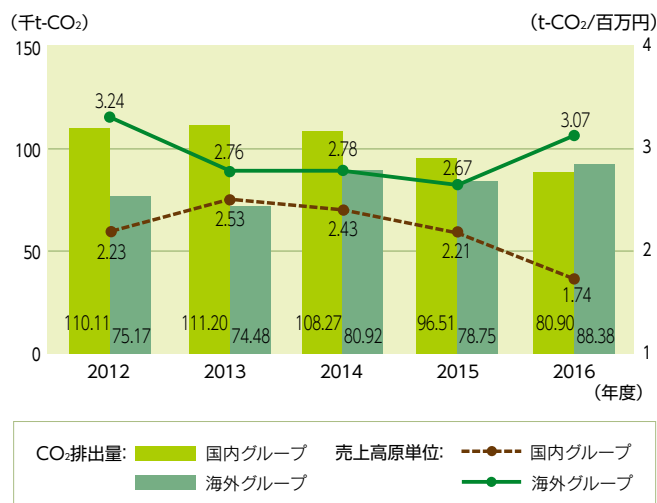
地球温暖化の原因であるCO₂の排出量削減に向けた省エネルギー活動を、製造部門、間接部門問わずグループ全体で推進しています。2016年度のCO₂排出量は、国内グループでは80,897t-CO₂（前年度比16.2%減少）、海外グループでは88,378t-CO₂（前年度比12.2%増加）となりました。

また、改正フロン法施行にともない、国内各事業所のフロン使用設備をすべて洗い出し、簡易点検、定期点検を実施しています。その結果、2016年度の漏えい量は国内グループで569t-CO₂に抑えることができました。

電気エネルギー使用量の年度推移



CO₂排出量の年度推移



電気エネルギーのCO₂排出換算係数は環境省発表値を使用しています。海外は、デフォルト値(0.555t-CO₂/千kWh)を使用していますが、タイ工場のみ工業団地発電の係数(0.197t-CO₂/千kWh)を使用しています。海外の売上高は円高の影響を受けています。

2016年度 省エネ・省資源活動事例

CMKグループでは、毎年度省エネ・省資源計画をたて活動しています。

2016年度は、計画の中で国内4工場・11案件、海外3工場・13案件の計画を実行しました。

主な実行案件としては、エアークOMPRESSORを高効率タイプへ更新、冷温水発生器を高効率タイプへ更新、ポンプ変流量システムの導入、付帯設備へインバーター取付、高効率変圧器へ更新、LED照明へ切替、電気式蒸発器をガス式へ更新、水リサイクル装置の改造、エアークOMPRESSOR排熱利用その他です。この中には1年がかりで行った工事もありますが、確実にその成果は現れてきています。

この結果、2016年度の主な取り組みでの年間予想効果は電気エネルギー使用量が5,204千kWh削減、CO₂排出量が2,971t-CO₂削減、工業用水量387千m³削減となりました。



更新した高効率吸収式冷温水発生器



変流量システムポンプ群



変流量システムコントローラー

製品への環境配慮

グリーン調達活動

「地球環境にやさしい企業活動をあらゆる面で推進し、環境との調和を図るよう行動する」という考えに立ち、環境にやさしい製品の開発、環境に配慮した生産活動を推進しています。

その一環として、環境に配慮した資材の調達手段（グリーン調達）を導入し、グリーン調達基準書に則りお取引先様および購入資材の評価をしています。

評価にあたっては、品質・コスト・納期に加え、EMS基準とEHS管理基準※を併せた環境配慮性を重視した考え方を取り入れています。適切な管理体制の構築が確認されたお取引先様には「環境適合認定証」を発行し、管理パフォーマンス向上に繋げていただいています。



環境適合認定証

※ EMS：環境マネジメントシステム
(Environmental Management System)
EHS：環境負荷物質
(Environmental Hazardous Substances)

EHS管理システム

当社のEHS管理は、「EHS管理基本方針」「EHS管理の5原則」「EHS管理活動スローガン」の3つを念頭にシステムを構築しています。

EHS管理システムでは、原材料調達、加工・製造およびお客様へ納入される製品に環境負荷物質が含まれないように、お取引先様とともにEHS管理の構築を行い、社会への安心と満足の仕組みづくりに努めています。

EHS管理 基本方針

EHS管理 基本方針

1. EHS管理活動における化学物質管理の重要性を認識し、責任と役割を明確に推進する
2. EHSに関する法規制、業界基準及び顧客要求を遵守する活動を実施する
3. EHSの適切な管理と有害物質の代替品への切り替え及び継続的改善を推進する
4. 製品と顧客との適切な関係を築きサプライチェーンを通じてEHS管理活動を推進する
5. EHS管理に関する啓発及び教育活動を推進する
6. EHS管理の透明性を評価し、社内外のコミュニケーションに努める

CMK

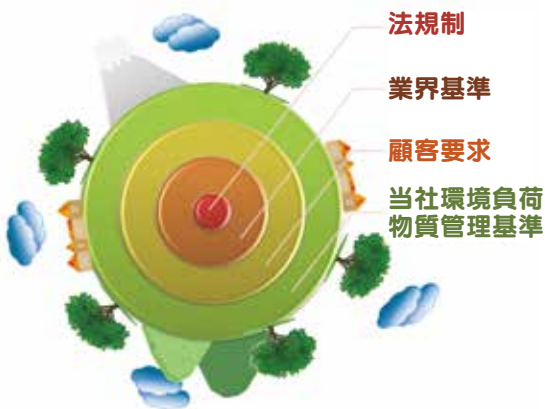
EHS管理の5原則

- ① 企画・設計しない
- ② 買わない
- ③ 作らない
- ④ 出さない
- ⑤ 省かない

EHS管理活動スローガン

**環境負荷禁止物質を一歩たりとも
CMKグループにいれません**

EHS管理活動



プリント配線板の生産には様々な化学物質が使用されており、その中には、地球環境を破壊する物質や私たちの健康を損なう原因となる物質も存在します。

当社では、環境や人体へ影響を与える化学物質を「環境負荷物質（EHS）」と定義づけ、RoHS指令やREACH規則などの国際的な法規制の遵守はもちろんのこと、業界・お客様などの外部情報から得られた有害性が懸念されている化学物質にも対応した「環境負荷物質管理基準」を制定して、製品への含有禁止や含有量を制限し運用しています。

原材料から製品を生産する過程で使用する材料に対して、「環境負荷物質管理基準」に適合している材料のみを購入し厳重に監視・管理を行い、サプライチェーンを通じた活動を実施しています。

環境配慮型プリント配線板「E-spec」

自社の環境基準を満たす製品を「E-spec」として販売し、製品の提供を通じ環境負荷低減にも取り組んでいます。

E-spec 基準に適合した製品には、ご要望に応じてE-spec マークを表示しています。2016年度のE-spec の売上高は、全体の16%となりました。

E-specの必須基準

- ・ ISO14001認証取得工場
- ・ オゾン層破壊物質の不使用
- ・ 塩素系有機溶剤の不使用
- ・ PVC (ポリ塩化ビニル) の梱包材への不使用
- ・ RoHS指令6物質を含む自社で規定した禁止物質の不使用

+

E-specの選択基準

- ① ハロゲンフリー化
- ② 鉛フリー化
- ③ ハロゲン・鉛フリー化

E-specマーク

- ① CMK HF
- ② CMK PF
- ③ CMK HF PF

マークは2003年12月に商標登録済み



お客様とともに ー品質・安全性ー

お客様によりご満足いただける魅力ある製品・サービスを提供できるよう、品質・安全性のさらなる向上に取り組んでいます。

品質保証に対する考え方

「品質第一の経営」の方針のもと、お客様に満足いただける魅力ある製品・サービスを提供することで、信頼感を高め、かつ事業を通じて広く社会に貢献していきたいと考えています。

そのため、「心のこもった物づくり」を合言葉に、不良0（ゼロ）、クレーム0（ゼロ）を「あるべき姿」と考え、顧客満足度ナンバー1企業を目指し、品質の強化ならびに信頼性の向上に取り組んでいます。

品質方針

経営理念のひとつである「ユーザーに信頼され、製品を通じてお客様に満足、喜びそして感動を提供する」という考えのもと、「品質方針」を次のとおり定めています。

- 一. お客様の期待とニーズを的確に捉え、常に選ばれる会社となるため、魅力ある製品・サービスを提供して行きます。
- 一. 品質の重要性を認識し、全員参加のもとに品質マネジメントシステムの継続的な改善に務めます。
- 一. 品質目標を設定し、達成するための手段を明確にして、迅速かつ適切に活動します。

品質保証体制

品質担当役員を中心に、グループ全事業所の品質保証を管理・統括する組織として品質保証統括部を設置するとともに、生産拠点のそれぞれに品質保証部門を設けています。

この品質保証組織が推進役となり、品質情報を共有するなど互いが密接に連携した役割分担のもと、お客様からのさまざまなニーズを反映させて、全社が一丸となった品質活動を体系的、かつ計画的に進めています。

品質/環境マネジメントシステム

グローバルな製品展開には、世界のどの工場でも生産された製品でも、すべて同一水準の品質が保証される体制が重要となります。

そのためにグループ全事業所では、世界各国に通用する品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001、または自動車業界向けの国際規格ISO/TS16949、そして環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得しています。

これらの国際規格をベースにした社内マネジメント体制をより効率的、かつ効果的に運用するため、品質および環境マネジメントシステムの統合に向けた活動を推進しています。

製品の安全性確保に向けた取り組み

お客様に安心してご使用いただける製品を提供するため、プリント配線板を構成する材料（基材、ソルダーレジストなど）について当社独自の評価にもとづく「材料認定システム」を運用しています。

材料の認定時には、関係部門による検証の場を設け、材料の信頼性ならびに環境負荷物質（EHS）の管理状況を確認するため、お取引先様から環境負荷物質不使用保証書、SDS（Safety Data Sheet 安全データシート）などの文書を提出いただき、環境面においても安全な材料を採用しています。

また、米国の安全規格であるULにおいても、新製品や新材料について積極的に申請し、UL規格で認定された製品を提供しています。



環境試験装置

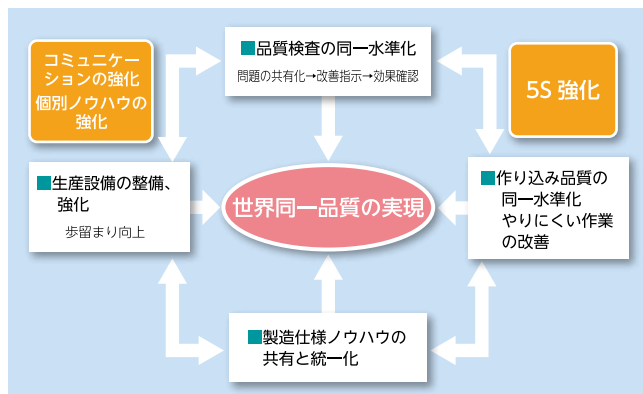
実装評価装置

世界同一品質の実現に向けての取り組み

世界のどの工場でも同一品質で生産できることを目指し、製造工程ごとに国内外の担当者会議を行い、情報を迅速に共有する態勢を整備するとともに、相互派遣での実地研修により、工場間のコミュニケーションの活性化と人材交流をはかっています。

その結果、一つの工場で発生した問題やその解決事例など製造仕様のノウハウが水平展開され、グループ全事業所がベクトルを合わせた生産体制へ着実に変化しています。

さらなる活動を継続することで、不良率の低減および生産性の向上を図り、グループ全事業所が同一品質で生産できる体制を実現させていきます。





お客様とともに 一顧客ニーズ収集活動一

お客様のニーズを把握するため、お客様満足度に関するアンケート（以下CS調査）の実施や外部展示会への積極的な出展等を通じ、お客様からのご意見やご要望等、課題を把握する機会を設けています。継続的な改善活動を通じ、お客様にご満足いただける企業を目指しています。

CS調査による顧客ニーズ収集活動

CS調査の実施

CS調査では「製品」をはじめ「営業」「品質」「納期」「技術」といった各分野における調査を実施、その情報からお客様に満足していただけるサービスや製品の提供に努めています。

調査結果の分析および改善活動について

調査で得られた結果をもとに傾向分析を行い、経営層と情報を共有するとともに、担当部門は改善に向けた施策を実施します。改善活動の情報はCS調査掲示板により社内共有する仕組みとなっています。他部門の改善活動において参考となる事例もあり、さまざまな部門が一体となりお客様満足度向上を目指しています。

取り組み活動状況についてのご報告

改善活動の状況は、担当営業を通じお客様にご報告します。改善を期待されている内容について、どのように取り組んでいるかをお伝えすることも重要なプロセスの一つだと考えています。

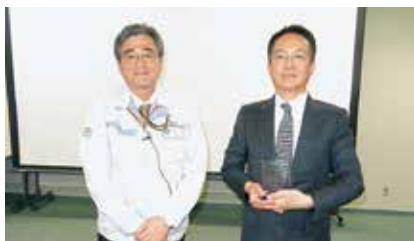
CS調査で改善活動の有効性を評価

前年度のCS調査で課題となった事項に対しては、その取り組み活動が有効であったか否かを次期CS調査で分析する流れとしています。お客様のニーズを継続的に収集・評価分析・改善活動をサイクル化していくことにより、お客様満足度向上につなげていきたいと考えています。

お客様からの主な表彰

昨年度の活動に対し、お客様より表彰いただきました。

今後もお客様に信頼される企業となるべく、お客様満足度向上に取り組んでいきます。



写真左：トヨタ自動車㈱ 常務理事 広瀬工場長 新美様
右：当社品質担当 花岡取締役

2016年度品質優良賞
トヨタ自動車株式会社 広瀬工場様より



Outstanding Quality Excellence
Alpine Electronics of America



2016年度VE革新賞

アルパイン株式会社様より

2017年度の主な計画

CS調査と併行して、改善活動・施策の有効性評価を継続実施します。加えて、海外各地域におけるお客様のニーズを的確に捉えるため、各所に応じたアンケートの展開など活動をさらに推進します。

2016年度のトピックス

国内・海外拠点で活躍する営業の活きた情報誌として「TEAM1000」を発行しています。2016年度の発行件数は72件。営業が抱える課題やお客様との対応状況、各所で開催する勉強会の様子に加え、各地の特色、文化の紹介なども掲載され、情報共有の場になっています。



TEAM1000の掲示 (SEセンター)



勉強会の様子 (CMK EUROPE N.V.)

展示会への出展

お客様のニーズを収集する機会として、継続的に展示会へ出展しています。

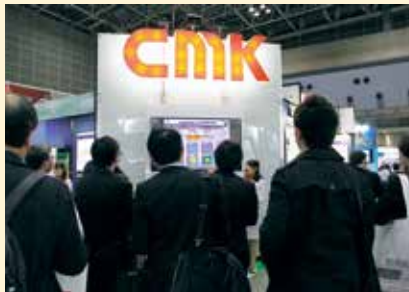
ネプコンジャパン2017へ出展

2017年1月18日～20日に開催されたネプコンジャパン2017では「カーエレクトロニクス展」と「プリント配線板EXPO」の2拠点へ出展しました。車載プリント配線板関連では、業界No.1の信頼と実績を背景に「安全・快適・環境調和」に高信頼性プリント配線板で貢献します。」を出展コンセプトに掲げ、ますます需要が高まるハイブリッド車や電気自動車向けに高放熱・大電流化対応配線板など各種プリント配線板を提案しました。また、ウェアラブル関連では「より薄く、より小さく」各種最新のプリント配線板技術で貢献します。」を出展コンセプトに「次世代のウェアラブル時代に最適」な最先端の小型・薄型化技術を提案しました。

その結果、前年比25%の来場者増となり、多数のご要望や当社への期待を直接肌で実感する機会となりました。



カーエレクトロニクス展



プリント配線板 EXPO



小型・薄型化対応フレキシブル配線板

JPCAショー2017へ出展

2017年6月7日～9日に開催されたJPCAショー2017では、先進運転支援システム (ADAS) やIoT (Internet-of-things) をキーワードに、次世代へのニーズに対応すべく、自動車分野をはじめ、航空宇宙・ロボット・医療・ヘルスケア分野まで各種用途向けに進化させたプリント配線板を出展しました。

主力製品である車載用途では、ミリ波レーダー配線板 (周波数79GHz帯域対応)、高放熱配線板、高耐熱高信頼性配線板、高電圧大電流対応配線板の開発製品を出展し、先端ウェアラブル情報端末向けには性能を重視したリジッド・フレックス配線板、ビルドアップ配線板、モジュール配線板の展示他、これまでにない「曲がる・軽い・マグネット式」を実現したLEDデジタルサイネージ製品 (Magic Flex) でのデッドスペースへの曲面映像など、最新製品による多種多様な提案を行うことができました。

数多くの来場者がブースを訪れ興味を示していただき、商談にもつながるなど大変有意義な展示会となりました。



ミリ波レーダー配線板 (79GHz 帯域対応)



航空宇宙評価配線板 (JAXA 様向け)



デジタルサイネージ (Magic Flex)



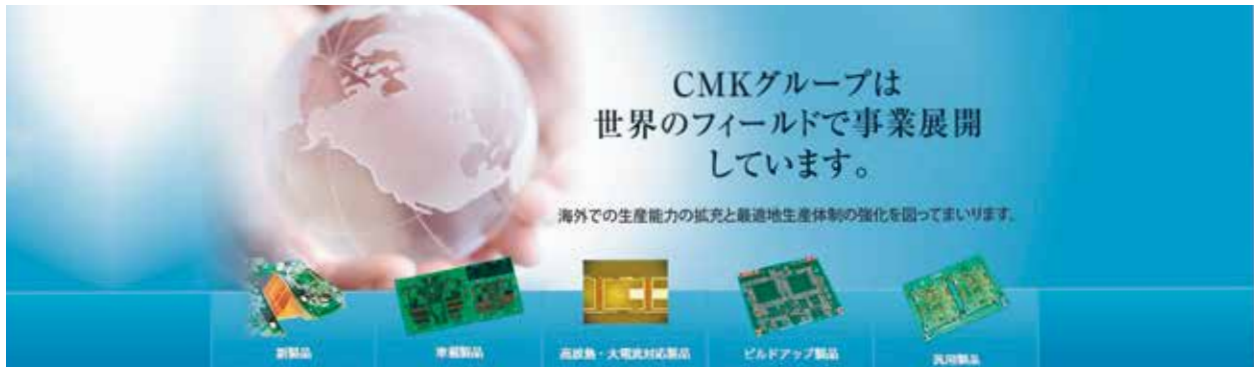
株主様とともに

より多くの方に当社の真の姿が理解され株主様となっていただくため、さらなる企業価値の向上を目指しています。

適時開示体制

株主や投資家のみなさまへの適時・適切な会計情報などの開示が健全経営の根幹を成すとの認識の下、迅速、正確、公正、公平な情報開示に取り組んでいます。

- 東京証券取引所の定める適時開示規則に従い、適時・適正な情報開示を行っています。
- 開示義務のない情報であっても、株主・投資家のみなさまに当社を理解していただくために有用と判断されるものについては、積極的に開示を行っています。
- 公平な情報開示のための重要な手段として、決算短信、決算説明資料、報告書、有価証券報告書などをホームページに掲載しています。



<http://www.cmk-corp.com/>

株主・投資家のみなさまとのコミュニケーション

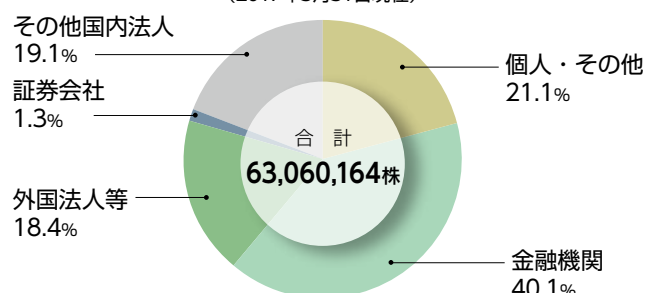
CSRの観点から、経営の透明性や公平性の向上に資する情報を提供するため、以下の取り組みを行っています。

- 株主総会を株主のみなさまとの重要な対話の場と位置付けており、利便性向上のため、招集通知の早期発送と早期開示に努めています。
- 機関投資家や証券アナリストの方を対象とした決算説明会を開催しています。
- 海外の株主・投資家のみなさまのご理解の一助として、決算短信や決算参考情報、招集通知等の英訳（要約）を作成・開示し、国内同様の情報提供に努めています。
- 創業以来、社会との関わりを最重要課題と位置づけており、環境保全活動においても積極的に取り組みを進め、その毎期の結果を「CSR報告書」と「環境データ集」としてとりまとめ、社内外へ発信しています。



決算説明会の開催

所有者別株式分布状況 (2017年3月31日現在)





お取引先様とともに 「公正な取引」

「CMKグループ購買方針」に基づき、お取引先様との信頼関係を大切にし適正な取引を継続的に実施しています。また、お取引先様とともに環境配慮・法令遵守に努め、サプライチェーン全体でのCSR調達に取り組んでいます。

CMKグループ購買方針

基本方針

1. 法の遵守

購買活動にあたり法令、社会規範を遵守します。独占禁止法（競争法）や下請法などの法令および一般的な商習慣に従い、取引上の優先的地位の濫用は行いません。業務上のコミュニケーションを通じ、お取引先様との信頼関係を構築します。社会的常識の範囲を超えた贈答、接待、供応などは、受けず、行わず、要求しません。

1. 公平・公正

国内外すべての企業に取引機会均等を図り、要求する品質、規格、性能などを満たしているか、市場価格に基づいた客観性、経済合理性の確保と公平かつ公正に評価し、お取引先様の選定をいたします。

1. 地球環境への配慮

地球環境はもとより社会に負荷の少ない原材料、商品、部材の購入に努めます。

公平、公正な取引の実施

お取引先様の選定や取引継続においては、公平・公正な購買取引を行うため「お取引先様選定方針」に基づき最終的な決定を行っています。

特にサプライチェーンを通じ、遵法性の確保をはじめ各種社会課題への取り組みなど、お取引先様と共に進めるべく、CSR調達を促進していきたいと考えています。

お取引先様選定方針

1. 企業の社会的責任の見地からのお取引先様選定

より良いパートナーシップの構築を目指し、取引の開始・継続にあたっては、以下項目の状況を総合的に配慮し購買活動を行ってまいります。

- (1) 法令及び社会規範の遵守
- (2) 人権・労働、安全衛生、環境、公正取引・倫理、情報セキュリティ等CSR活動
- (3) 経営状態の健全性
- (4) 品質、価格、納期等の適正水準維持、向上
- (5) 災害発生時等不測の事態における供給継続能力及び協力度

法令遵守の徹底

下請取引の公正化・下請事業者の利益保護を目的とする「下請法」の遵守と、社内啓発活動の一環として、eラーニングによる社員教育プログラムを実施しました。

eラーニングの実施により社員一人ひとりの理解度を把握・分析、今後の教育内容の拡充に活用し、法令遵守の徹底をはかります。

研修名	内部研修-職種別専門	公正競争-下請法(基礎編)	研修08A用
問題番号	質問	解答欄	
1	下請法は、親事業者および下請事業者の両社間に対して、違反行為を行わないように取り締まる法律である。	<input type="radio"/> クリア	<input type="radio"/> X
2	下請法の適用ある取引に該当するかどうかは、資本金と取引の形態の二つの観点で決定される。	<input type="radio"/> クリア	<input type="radio"/> X
3	資本金1000億円、年売上1兆円の事業者Aが、資本金5億円、年売上20億円の事業者Bに対して物品の製造を委託した場合、下請法の適用を受ける。	<input type="radio"/> クリア	<input type="radio"/> X
4	下請法の適用ある取引の形態とは、製造委託、修理委託、情報処理制作委託、設備提供委託の4類型に限定されている。	<input type="radio"/> クリア	<input type="radio"/> X
5	当社がカタログを廃止するような場合など、年1回程度しか行わないような業務であっても、下請法の適用対象となる。	<input type="radio"/> クリア	<input type="radio"/> X
6	下請法の適用ある取引では、下請事業者と十分な協議を行なった上であれば、注文書等の書面を交付しなくてもよい。	<input type="radio"/> クリア	<input type="radio"/> X

eラーニング「下請法(基礎編)」抜粋

お取引先様とのCSR(企業の社会的責任) 取り組み調査の実施

お取引先様へのCSRの推進状況を確認するためCSRセルフチェックを定期的にお願ひしています。今回9回目の実施となりますが、2016年度は28社に対し調査を行い、必要に応じて改善をお願いしました。本活動を通じてお取引先様におけるCSR活動に対する意識も年々高まっていることが感じられます。

当社のCSRに対する考え方をお取引先様にご理解いただく機会でもありますので、調査対象先の拡大と、近年注目されている紛争鉱物への対応についてもCSR推進状況を確認しています。



分析フィードバック



社員とともに 一人権・労働

「経営理念」、「CMKグループ行動宣言」に基づき、個人の多様な価値観を認めるなど人権を尊重し、社員一人ひとりの可能性を最大限にひきだし、意欲的に職務に取り組む環境を醸成しています。

人権の尊重・公正な評価・人材育成

人権の尊重、公正な人事

性別、年齢、国籍、宗教等による差別を排除するなど、人権の尊重をはじめ多様な人材採用、育成、ならびに成果や能力に応じた公正な評価、処遇に取り組んでいます。

また、コンプライアンス意識向上をはかるため、新入社員への教育・研修をはじめ、拠点毎に推進体制を整備し計画的に活動を進めています。なかでも、ヘルプラインである内部通報制度の理解・促進に力点を置き、問題の未然防止と解決に努めています。

当社の人材育成

社員一人ひとりの能力開発を積極的に推進し、企業人としての資質を高め、行動力と豊かな創造性を有した社会に貢献できる人材を育成しています。

期待する人材像

- 自ら考え、行動し、成果を出す人材（自考自走社員）
- チャレンジングな目標設定をして、その目標に対して真摯、貪欲に取り組み、成果を出す人材
- 高度な専門能力を有し、プロ意識を持った人材
- 計数を理解し、適正な優先順位付けが出来る人材
- 多様性を受け入れ、どこも国・地域でも活躍できる人材
- 部下の育成と動機付けを積極的に行う人材
- 創造性豊かで成果を出せる人材
- 自己啓発を継続して取り組む人材

社内オープンエントリー制度・社内公募制度

社員の主体的キャリア形成の促進をはかるため「社内オープンエントリー制度」および「社内公募制度」を導入しています。社員育成のためのジョブローテーションに加え、社員に職種選択の機会を与え、社員の自己実現の支援、人材と組織の活性化をはかっています。

キャリアパス制度

社員のキャリア形成および将来の経営を担う人材の育成を目的として、職種毎に定めたキャリアプランに基づく「キャリアパス制度」を導入しています。

アドバイザー制度

新入社員および若手社員を対象に、メンタル面のサポートや社会人としての基礎（姿勢、マナー、常識等）を指導する「アドバイザー」を任命しています。社員の悩み・不安・不満等の緩和、モチベーションの維持、社会人としての基礎強化を目的とすると同時に、アドバイザーとしてのマネジメントスキルの向上を通じ、社内育成風土の醸成に寄与しています。

教育カリキュラム

教育体系に基づき、経営・グローバル人材育成、階層別・部門別・選抜・共通・海外赴任前教育、自己啓発支援など多様なコースを用意し、新入社員から幹部社員まで幅広く教育を実施しています。



2016年10月開催
新任課長育成研修

海外人材派遣制度

グローバル人材育成の一環として、中堅の技術者を対象に語学留学を実施、世界で活躍可能な人材の育成に取り組んでいます。

2016年1月から約1年間、2名を米国の大学に派遣し、現地の人達や同じ留学生とのコミュニケーションを通じ語学力を修得させるとともに、現地法人にて営業の実務研修を行いました。派遣にあたっては英語能力や異文化適応力の育成指標を設定し、派遣後は語学の成長度合いを評価する仕組みを整備しています。

世界同一品質に向けたグローバル活動

【海外ナショナルスタッフの日本研修】

ものづくりの技量強化や品質・生産の改善を目的として、当社の海外事業所からナショナルスタッフを日本に招集し、一定期間研修を実施しています。

2016年度は5月に旗利得電子、6月と翌年2月にCMKタイからナショナルスタッフが日本で研修し、帰任後は習得した技量や改善事項を各工場に反映させ、当社の目指す「世界同一品質」の実現に向け、活躍が期待されます。



旗利得電子スタッフ



CMK タイスタッフ

【女性スタッフによる海外指導】

海外事業拠点との品質交流活動のなかで、蒲原工場女性スタッフが直接現地に赴き、指導者として現場に密着した形で技量の強化に努めています。

2016年度は旗利得電子にて検査機の条件設定基準教育、CMKタイでは製品の確認作業を指導しました。さらに2017年度は指導期間を大幅に延長し実施しています。現地では、女性ならではのきめ細かい親身な指導と作業後のフォローが好評を得ており、今後グローバル活動の一環として積極的に女性スタッフの活躍の場を広げていきます。



2016年7月旗利得電子にて



2016年9月CMKタイにて

ダイバーシティ推進

当社では、さらなる企業価値向上のため、経営環境の変化により柔軟に対応していくことが必要であり、そのための多様な価値観や人材の必要性を踏まえ、ダイバーシティを積極的に推進しています。

外国人採用

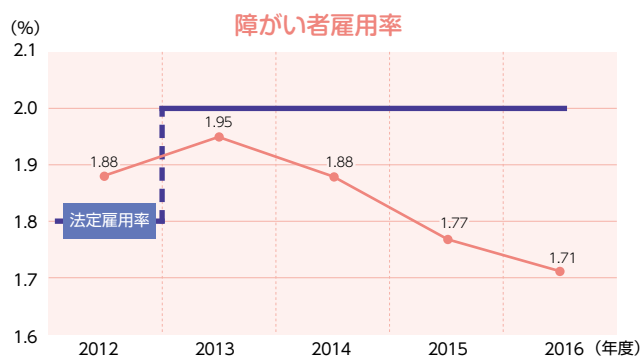
グローバルな企業活動を推進するにあたり、外国籍の人材採用に取り組んでいます。ハローワーク主催の外国人向け就職フェアに参加し、外国人留学生との接点を増やしています。2016年度は3名が入社しました。

女性社員の活躍推進

女性の職業生活における活躍推進をはかるため、女性活躍推進法に基づき、女性の管理職比率（目標3%以上）や、女性社員の採用比率（目標30%以上）の向上を目標とした「一般事業主行動計画」を策定し、2021年3月達成に向け各種施策を展開しています。

障がい者雇用

企業として、障がい者を雇用していくことは社会的な使命であり、関係官庁と連携をはかりながら、障がい者雇用に取り組んでいます。



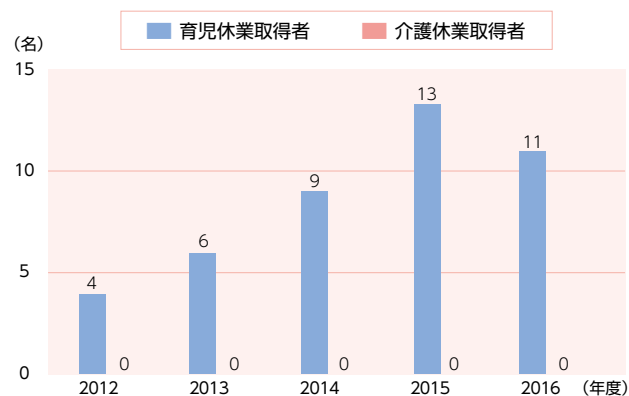
※上記推移のなか、2016年10月から雇用率は上昇し、12月以降は法定雇用率を上回っています(3月度雇用率2.19%)。

ワークライフ・バランス

社員の働きやすさの向上とワークライフ・バランス（仕事と生活の調和）を目的に推進しています。

育児・介護支援制度

育児・介護のための短時間勤務制度を導入し、社員が仕事と家庭生活を両立し、安心して働けるための育児・介護支援制度を導入しています。



年次有給休暇の半日単位取得制度（半休制度）

年次有給休暇を半日単位で取得できる「半休制度」を2014年4月より導入しています。

半日有給休暇取得回数は以下のとおりです。

年度	2014	2015	2016
取得回数	1,407	2,354	1,706

代替休日制度（代休制度）

2014年4月より、社員の健康保持（過重労働等の予防）を目的とし、休日出勤や残業時間等の時間外勤務が所定労働時間に達した場合、代替休日（代休）の取得を可能とする制度を導入しています。

代替休日の取得回数は以下のとおりです。

年度	2014	2015	2016
取得回数	9	21	69



社員とともに — 安全衛生 —

従業員の安全と健康の確保は、事業の「発展と永続」を支える基盤です。

従業員一人ひとりの安全衛生に対する意義の高揚を図り、職場における安全第一の思想を基本に、全員参加による危険のない安心して働ける快適職場の形成を目指します。

CMKグループ安全衛生宣言 & 安全衛生基本方針

安全衛生宣言

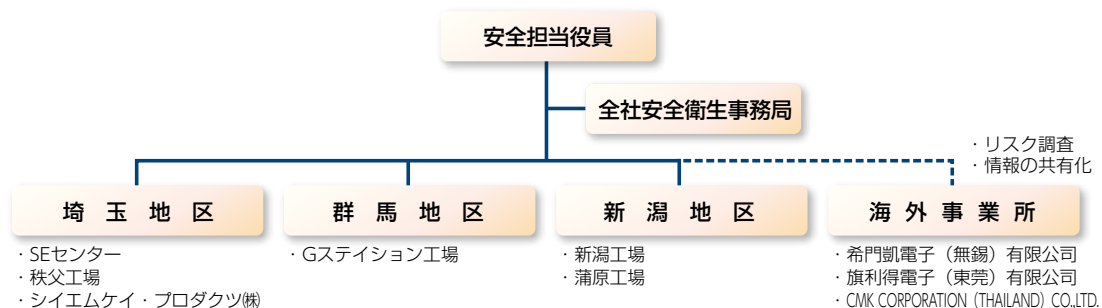
日本CMKは、経営理念の一つである「社員も会社も輝き、躍動している企業を目指す」に基づき、安全と健康を全員で先取りし、人間尊重の快適職場づくりを目指す。

安全衛生基本方針

「安全が何よりも最優先」という理念に基づき、職場をあげて安全衛生活動を推進するとともに、従業員一人ひとりの自己責任意識のもと、安全・安心な職場づくりを目指す。

安全衛生管理体制

全社の安全を統括する担当役員を任命、基本方針のもとグループ内での積極的な安全衛生推進活動を実施しています。その他、全社安全関連情報の共有や地区拠点毎の責任体制のなか、相互パトロールなど連携した活動を推進しています。



労働安全衛生マネジメントシステムの推進

労働災害の防止、健康増進、快適な職場環境づくりを進める仕組みとして推進しており、職場の安全管理活動についてのPDCAサイクルを、組織的・計画的・継続的にまわしています。

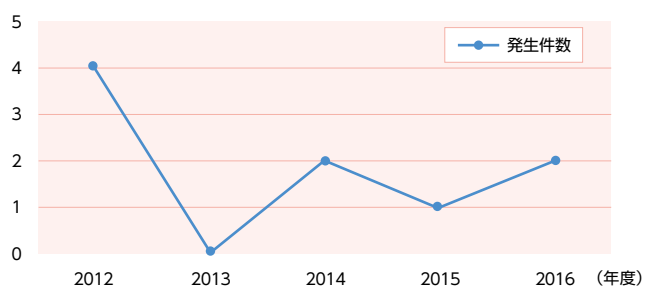
労働安全衛生関連教育

教育名称	教育内容・目的
チームリーダー安全衛生セミナー	法定の職長教育に基づいた現場監督者の職務と知識の習得
危険予知訓練 (KYT)	危険予知活動による安全職場の確立の重要性と手法の習得
設備保全、安全講習会	予防保全を含む設備維持に関する知識の習得
メンタルヘルスセミナー	ストレス全般と早期発見、予防方法について

※その他、職場毎のOJT教育、各種法定資格取得を推進しています。

休業災害発生件数 (国内グループ合計)

2016年度は休業をとまなう労働災害の発生件数は2件でした。ゼロ災達成のために、引き続き基本ルールの忠実な遵守や非定常作業時における手順書の確認・改定・教育訓練を徹底するとともに、リスクアセスメントなどの予防管理活動に取り組んでいきます。



普通救命講習会の開催

近年、健康診断の有所見率が全国平均で50%を超え、上昇を続けているなか、万が一の時に備えるため、当社でも国内主要事業所へAED設置を推進して来しました。

2016年度はSEセンターとGステーション工場で消防署職員を講師に招き「普通救命講習会」を開催し、30名の従業員が受講しました。講習会では、AEDの取扱いを含め、救命救急の基礎を習得しました。



SEセンター

Gステーション工場

全社安全衛生活動

全社安全衛生では、「防火観点監査チェックリスト」および「安全衛生パトロールチェックシート」に基づき、各事業所で自主点検を行い、事業所相互で情報共有をしています。

安全衛生パトロール チェックシート		承認	確認	作成
事業所名		実施日 年 月 日		
項目	No	チェック内容		評価点 0 1 2
安全衛生	1	ホースリ、階段、安全網などは外れたり壊れたりしていないか。		0 1 2
	2	昇降機や安全靴が必要な部署は全員が着用しているか。		0 1 2
	3	装置等の非常停止スイッチはいつでも押せる状態になっているか、また点検実施されているか。		0 1 2
	4	エレベーター、その他設備等には安全装置(インターロック、センサー、安全網)があるか、正常に作動するか。		0 1 2
	5	エレベーター中は電灯などの警告を点灯しているか、そのほか注意喚起等が実施されているか。		0 1 2
	6	作業場の区画は白線等により確保されているか。		0 1 2
	7	高所作業時にはコープ、マスク、手袋を使用しているか、その他各種保護具は設置されているか。		0 1 2
	8	ヒール履き靴はひき入れ履き入れ、非安全靴は履き替はされているか。		0 1 2
	9	防音マフの吸気係は発生し入り用であり使用期限は有効か。		0 1 2
	10	防音の着用・裏返しは正しいか。		0 1 2
	11	作業中の動作に危険はないか。		0 1 2
	12	非常用の食料等の数量は定数あるか。		0 1 2
	13	蛍光灯は切れているか、非常口の誘導灯は切れていないか、非常階段の照明は点灯しているか。		0 1 2
	14	配電盤やコンセントは清掃されているか、プラグなどは適切に挿入されているか。		0 1 2
	15	非常口・避難経路は確保されているか、プラグなどは適切に挿入されているか。		0 1 2

ストレスチェックの実施

労働安全衛生法が改正されたことにより、当社では、2016年10月にストレスチェックを実施しました。実施後、ストレスチェック結果をもとに作成した集団分析を安全衛生委員会で共有し、職場改善につなげるとともに、希望する従業員には産業医による面接指導を行いました。

従業員が心のストレスを抱えることなく、持てる力を最大限に発揮できるよう、働きやすい職場づくりを進めていきます。

質問票のイメージ				
	そ う だ	そ ま あ う	お や が う	ち が う
あなたの仕事についてうかがいます。最もあてはまるものに○を付けてください。				
1. 非常にたくさんの仕事をしなければならない	1	2	3	4
2. 時間内に仕事が処理しきれない	1	2	3	4
...				
最近1か月間のあなたの状態についてうかがいます。最もあてはまるものに○を付けてください。				
1. 活気がわいてくる	1	2	3	4
2. 元気がいっぱい	1	2	3	4
...				
あなたの周りの方々についてうかがいます。最もあてはまるものに○を付けてください。				
次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか？				
1. 上司	1	2	3	4
2. 職場の同僚	1	2	3	4
...				

安全衛生スローガンと重点取り組み事項

2017年度 安全衛生スローガン
みんなでつくるゼロ災職場
みんなで進める健康職場

重点取り組み事項

- 危険予知訓練やリスクアセスメントなどによる危険または有害要因の特定とその排除・低減活動
- 定期的な作業手順書の見直しと教育訓練(非正常作業、安全項目の追記など)
- 現場巡視による危険箇所の特定および改善活動(適正な保護具の設置および着用状況の確認)
- 作業環境測定、健康診断などの労働衛生に関する活動
- 設備導入・更新・改造などの計画段階における安全作業についての確認
- 安全運転励行に関する啓発活動
- 始業前点検・安全指導の徹底(新入社員等への指導強化)



情報セキュリティ

情報セキュリティに関する脅威がますます高度化・複雑化しているなか、当社はお客様からお預かりしている情報の保護が第一と考えています。情報資産を安全かつ確実に保護するため、情報漏えい・改ざんなどのリスク排除に対する情報セキュリティ対策の維持・向上への様々な取り組みを実施しています。

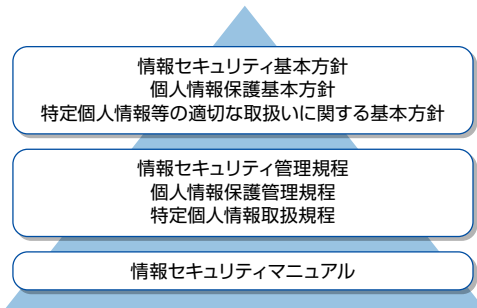
基本方針・関連規程

情報セキュリティポリシー

情報の適切な共有・活用と、機密性が高度に守られる体制を堅持するため、情報セキュリティ基本方針、規程、マニュアルを制定し、これを遵守しています。

プライバシーポリシー

個人情報の取り扱いについて、個人情報保護基本方針・規程などを制定し、紛失や不正利用の防止、適切な取り扱いについての教育を実施し、安全対策を講じています。



自己評価シートによる点検

当社はリスクマネジメントが重要であるとの観点から、IT機器取り扱いや機密情報について正しく管理・運用しているか、自己評価シートにより定期的な点検・評価を行い、情報セキュリティの整備・運用状況を確認しています。

なお、本シートは環境変化に合わせ2016年11月に項目の見直しを行い、新たにVer4として運用しています。また、自己評価により顕在化した課題の是正、ルール強化の必要性から規程・マニュアル類への反映等々、PDCAサイクルによる継続的な改善活動として、情報セキュリティの向上に取り組んでいます。



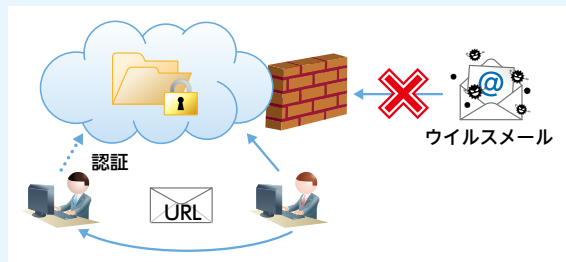
情報セキュリティ自己評価シート

クラウド移行によるセキュリティ向上

さらなるセキュリティの向上や、多様化する働き方に対応するため、データの保存先をクラウドに移行、共有化の推進を開始しました。

セキュリティ向上

- クラウド上で直接データを共有することが可能となったため、メールを介したデータの誤送信など漏えいリスクの軽減。
- デバイス単位でのローカル保存が不要となったため、紛失時の情報漏えい、サイバー攻撃によるリスクの軽減。
- 万が一に情報漏えいが起こってしまった場合であっても、クラウド上のデータでは暗号化がはかられているため、データの開封が困難。



標的型攻撃メールへの対策

標的型攻撃メールによるサイバー攻撃の脅威が強まっている背景から、従業員に対し不審メールの特徴や受信した際の対処方法など、定期的に注意喚起を行っています。また、従前からのアンチウイルス・ソフトを活用した対策に加え、送信元IPアドレスのブラックリスト方式による対策も取り入れるなど、検知・防御率の向上をはかっています。

情報セキュリティに関する内部監査

「情報セキュリティマニュアル」に基づき、各部門の情報資産管理が適正に行われているかを内部監査部門により定期監査を実施しています。監査結果により改善提言を行うなど、情報セキュリティ管理の整備と運用の強化をはかっています。また、監査法人によるIT監査においても有効との評価を得ています。



社会貢献

企業市民として、地域社会との調和共存をはかり、信頼関係を築くことが重要と考え、社会貢献活動を推進しています。

インターンシップの実施

インターンシップを通じて職業を体験し、職場適正や労働について深く考えてもらう機会を提供するとともに職場活性化の役割を果たしています。



インターンシップ最終日の発表会の様子
(2016年8月29日～9月7日で実施)

清掃・美化活動

各事業所では、定期的に周辺地域のクリーン活動を行うとともに、地域清掃イベントなどにも参加し、地域に根差した活動を継続的に実施しています。



旗利得電子（東莞）有限公司
清掃登山を実施（2016年12月10日）



シイエムケイ・プロダクツ(株)
相模川クリーン作戦に参加
(2016年11月27日)



秩父工場
周辺道路や公園の清掃実施
(2016年5月31日)



SE 地区環境美化運動
(毎月実施)



群馬地区
伊勢崎市の春の環境美化運動へ参加
(2016年5月29日)

CMK 日本シイムケイ株式会社

本 社：〒163-1388 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号
新宿アイランドタワー43F
お問い合わせ先：環境推進部（Gステーション工場）
〒372-0824 群馬県伊勢崎市柴町 236
TEL：0270-32-9855 FAX：0270-32-2613
E-mail：kankyou@cmk.co.jp
<http://www.cmk-corp.com/>
発 行 日：2017年9月



この報告書は、「大豆油インキ」「FSC® 認証紙」を使用しています。
また、印刷工程で有害な廃液を出さない「水なし印刷方式」で印刷し、環境に配慮して製本されています。
